



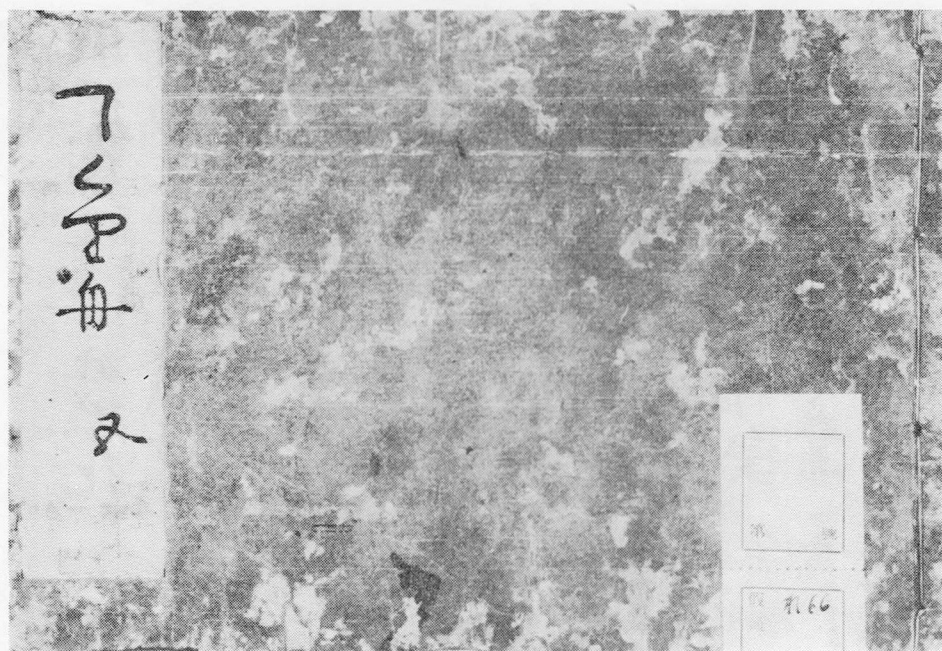
Title	影印『手繰舟』巻五
Author(s)	
Citation	語文. 1979, 36, p. 45-71
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/68662
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

手
繰
舟
五



平繡丹卷第五冬

題

初冬 逢摩忘 傷影誼 四西 落葉 霜 茶花 冬月 納豆

象子 十夜 神政 殘菊 風 敗花 寒草 冬茶湯 冬菜

水仙花 頭巾 衾 付衾玉 蒲團 霰 雪 火燒 市奈 水鳥 付雪鴨 陶器 爐火 炭 平梅 綢代

枇杷花 紙子 氷 付氷柱 雲 子奈 大師講 親衛忌 鷹島狩 火桶 神樂 冬鷺 蛸

生海胤
鱈
鈐扣
寒經粉
古北納
餠花
年內立春
難冬

初鯨
師
寒垢離
煤搗
佛名
除夜
歲暮

九乃あのかち十たれち乃場^標矢伸

佛影講

多乃やたけり^{大夜}乃新講^{以仙}
地より^標乃^{収着}もれも^標乃新講^{幽的}
は乃水あり^標地より^標乃新講^{幽的}

神歸

乃乃乃^{大夜}まゐる^{至吉}乃^{以仙}神^{以仙}建^{以仙}
乃乃乃^{以仙}ち^{以仙}乃^{以仙}乃^{以仙}乃^{以仙}乃^{以仙}乃^{以仙}
乃乃乃^{以仙}乃^{以仙}乃^{以仙}乃^{以仙}乃^{以仙}乃^{以仙}

時雨

九月乃月乃^{天喜}ある^{乃守}時雨^{乃守}
十月乃^{大夜}乃^{乃守}乃^{乃守}乃^{乃守}乃^{乃守}乃^{乃守}

四友乃^{乃守}乃^{乃守}乃^{乃守}乃^{乃守}

乃乃乃^{天喜}乃^{乃守}乃^{乃守}乃^{乃守}乃^{乃守}乃^{乃守}
乃乃乃^{乃守}乃^{乃守}乃^{乃守}乃^{乃守}乃^{乃守}乃^{乃守}
乃乃乃^{乃守}乃^{乃守}乃^{乃守}乃^{乃守}乃^{乃守}乃^{乃守}
乃乃乃^{乃守}乃^{乃守}乃^{乃守}乃^{乃守}乃^{乃守}乃^{乃守}
乃乃乃^{乃守}乃^{乃守}乃^{乃守}乃^{乃守}乃^{乃守}乃^{乃守}
乃乃乃^{乃守}乃^{乃守}乃^{乃守}乃^{乃守}乃^{乃守}乃^{乃守}
乃乃乃^{乃守}乃^{乃守}乃^{乃守}乃^{乃守}乃^{乃守}乃^{乃守}
乃乃乃^{乃守}乃^{乃守}乃^{乃守}乃^{乃守}乃^{乃守}乃^{乃守}
乃乃乃^{乃守}乃^{乃守}乃^{乃守}乃^{乃守}乃^{乃守}乃^{乃守}
乃乃乃^{乃守}乃^{乃守}乃^{乃守}乃^{乃守}乃^{乃守}乃^{乃守}

鹿かろに止ねるやれ時あり泉不分

陣よりやうく時あり月満標

笠ねる像ありや利欠同

むしありや傘けり山大後来字

村ありけりけり而大後勝胸

村あり小ありりかり大後先

飛脚ありつ大後通町大後的

冬やい大後水あり友也

玄のちもあ大後なれや水あり来字

残菊

人だれ目をう大後菊冬小大後聖聖

菊やいも花枝あり標伸

三花紫

風よりて伴りと大後紫泉不分

菊あり小大後花の抄地か大後静

奥ありと大後花本大後張利房

庚申節り

才菊や時ありや大後花大張同永

菊あり小大後花本大後張利房

菊あり小大後花本大後張利房

菊あり小大後花本大後張利房

本枯

風の吹雪乃も地より生え
たよりたすきうおを因雨^揚利唐
かろ足て風機や干や乃飯^{大坂}一六

霜

おろむも火より人ぼろ橋^糸季吟
余のむかうつるい蓋やお花^揚欠伸
長崎めく

うねれいしきうあは^{天保}西羽
竹乃おの桐人乃とさる^揚正室

おろり鳴や侍公項乃天^揚短光
おふとくおさきもお花^月一葉子
朴乃木や太山もさるお銀^{と時}久九
おの銀やえ渡り橋乃上^{大坂}俊兵
お柱根はききやや字^揚家藏
石つまきききやや字^同源河
野も山乃降月杭^{平助}うお花^揚欠伸
月乃く水はききき^揚お花^揚琴和
おとれちよ木や山乃お花^{布衣}栄欠

帰花

花葉酒より水より木乃^{名氏}味^揚普喜

神のむ小まねのそ縁部大坂
 只や老乃あられ花心計
 様らるるれあまのや縁部大坂
 梅津川やほもかろ花後花
 家梅帰とまらや縁部以仙
 かろの候むはり西梅部以仙

茶花

茶花乃折ぐまや縁部以仙
 茶花乃折ぐまや縁部以仙
 茶のむもあらまのむ縁部以仙

寒草

枯てもあふむ候親ま草後花
 かろれ茶花や老の古延以仙
 月次真りよ
 茶花の枯る候とまら大坂

冬月

月を候まや白ゆふの坂大坂
 茶花乃折ぐまや縁部以仙
 冬茶湯

書折へひつゝり亦や羽茶湯

これを列茶事作とせん

左金はうづつ切井も小口より標去次

をいふぬ口切乃茶事と心れ大一六

口切やういふより茶碗標茶事

口切乃金れ名ありや炒茶標利房

口切や茶事もあれと向ひ日茶毛

口切たるより中れ出度標茶入

口切や茶後乃思ふは教標茶

茶湯若く茶目教と圓利日同

納豆

納豆も茶川砂より茶事

茶

赤大根をうけんとお茶標茶事

大根や障子の中にと茶標茶事

茶人をうけ風呂茶と根標茶事

茶事もいふと茶と茶日茶事

水仙花

まろふ地は椿と茶水仙標茶事

お茶は水仙と茶標茶事

餅は水仙と茶水仙標茶事

穉しきもあてまふ紙子随可偶
 風もくもあてまふ紙子随可偶
 風もくもあてまふ紙子随可偶
 風もくもあてまふ紙子随可偶

食

光陰乃矣今春乃又乃又
於子之共事而為今春節
紙之禮之為今春食
風之起乃今春之
今春之風乃今春之
今春之風乃今春之
今春之風乃今春之

水
付水柱

けしきのみ事もたれゆゑに
 事あるにんかともや月一守
 ありとも銀のふちと氷車
 何平れあつて氷が都
 茶屋の氷とたれ氷
 風うつ桶の底に氷
 月ともあはれと氷が都

愛

そんぞろとふかき電燈

雨あけと降ぬりけり鬼瓦^標度次
 降まるといふもやぞれ眼玉^目男也
 あゝもも山火^目何れやぞ碌^目一頃
 小園やかたれききもも竜^{三宅}義利
 むもろり玉とみけりや竜^標利矢
 上りて八竿^目のさう馬^目の竜^目野元
 名にめく解やとろり竜^目内次
 隔あてやんもくけりき玉^目句吟
 玉とねる葉なぐさ一葉^{大夜}内六
 付くや玉もさうに竜^標内六

雲

かゝもめ雲ハ雲^目のふけ^目一云
 おもひれ^目雲とさきと人^目を分^目雲
 詞へ解てさくや雲^目酒^目も也
 とれ酒やとさく又一雲^{大夜}雲

雲

若いよ初雲^目さるしをいふ^目一雲
 初雲と山溪^目けりや白^目雲^目致英
 袖^目のけ^目初^目もさるしや^目初^目雲^目雲^目
 すみけ月つひや雲^目初^目雲^目雲^目
 初^目雲^目初^目雲^目初^目雲^目初^目雲^目
 初^目雲^目初^目雲^目初^目雲^目初^目雲^目

下りてやうきふる女子天保

言わくはふりてに重荷天保

事なふ竹や胡弓天保

白くうき事衣に胡弓天保

はくふくは杖や重天保

降重やぬれ釘天保

かきくはくはく天保

さきさきはくはく天保

重や重天保

千句奉使天保

又重き重かきくはく天保

泉川天保

山や重くはくはく天保

重くはくはく天保

重くはくはく天保

重くはくはく天保

重くはくはく天保

重くはくはく天保

重くはくはく天保

重くはくはく天保

重くはくはく天保

重くはくはく天保

重くはくはく天保

重くはくはく天保

百丈もはれやうるまきほ解 兼次
旗乃ふたえとや音佛今也 勝政
ま旅離とほきておむや悟 未生
降はまや片雲乃事連大夜 以仙

山里よりて

まきやのいひき月好地大夜 森法
佛あまの姥もあり悟 孫光
かのうゝあ文化粧や天夜 音水
しらぬのいさふ大夜 音女
山風乃まきや悟 如幻
才男ふまひる大夜 音女
ま白ふもまけ清信 音女
色白ふもまけ日 音女
後統

姥井此齡えはつまきと悟 長法
人といふまきまのいりまき日 正友
海のまきまのまきや大夜 音女
おれしををのまきま悟 玄按
三月にまきと陣や藤州 玄按
月本國陣や悟 玄按
月もまきまのまき母花 玄按
さうまきまのまき悟 玄按
定めまきまのまき日 玄按
月よりまきまのまき悟 玄按
まきまのまきま悟 玄按

子系

子系に賣ける物乃大根湯 曲湯

中焼

お火焼やも井もかた橋河湯 勝政湯
お火にた乃新ひとてり湯 加長湯

大師講

大師講やも井もかた橋河湯 湯河湯
賢にりつ次智也勝や大師講 白吟湯

湯系

湯乃定はけ物ハケ系湯 如灰湯
湯毛ふ三寸もやけり湯 一六湯

親家忘

湯乃定はけ物ハケ系湯 如灰湯
湯毛ふ三寸もやけり湯 一六湯
湯乃定はけ物ハケ系湯 如灰湯
湯毛ふ三寸もやけり湯 一六湯

水鳥

付寄
出

水魚池乃藻屑也
藻屑乃浮萍也

水と火のや水と火の
業 好意

新嘉坡此書作少

勢をとりて當りなきにや沖乃石大切 春良

昔々と暗く静かな道
下

好く今後は之を甲斐家一守

かゝる時序うかひてこれ鴨江家^本心盤

山月人寄やうふれ鴨の汁 傳 伝元

酒中一物
名曰鴆
其性最毒
飲之立死
古人以此
爲酒中一
物也

法臨了通凡俗人皆是春編

川を渡る友を三可

子に作と梅乃ほるる
 強定

系由的系此是平八文字

於此是乃下
 於桑下

鷹狩

全弦系や人神はけて齋より保廣

齊に諸君表毛もよき所
 日 諸君

阿含經中やれも難し
同 醫經

於鴨也。乃以之爲聲。曰
信家

永産

原をよめりて下なる宮戸に儀重
 同

炉火

火桶

たゞゆゑに病を癒す

さきよおふそ物ぞんや相八標 埴土

炭

賣しやばきまふる山家炭東地 主庸

更しやおあひまふる家炭 同

焼や煙やれハまふる家炭芳房

小智まふるまふる山家炭大坂 伝重

ひせうやらの津園乃池田炭仙 仙

けし炭や水のまふるまふる山家炭大坂 仙

更乃焼や相りやまふる山家炭大坂 伝重

月退きや点炭やれ勝口友伝

白炭を枯木にまふる山家炭伝重

白炭やまけにめふる山家炭標

炭乃せう火焼や焼やまふる山家炭和 主負

香が炭乃まふる山家炭大坂 芳房

まふる山家炭乃せう火乃車炭大坂 伝重

せう火乃焼や焼やまふる山家炭大坂 芳房

おがや山家炭乃せう火乃山家炭大坂 仙

ここの山家炭乃せう火乃山家炭大坂 仙

おがや山家炭乃せう火乃山家炭大坂 仙

神樂

お祭ふまふる神樂乃せう火乃山家炭大坂 仙

繪ふまふる神樂乃せう火乃山家炭大坂 仙

かう神さるや梅と竹なる標
 祖父ちまひく神みおの大夜
 ざりものさになや神日 政也
 きしきもかゝる日 一六
 神松や葉くふおはる標 政成

早梅

陽よぬい信海ありや冬標
 う咲ハサ御能なしや冬日 成之
 冬咲神乃ち日 家受
 冬梅ももてあはる大夜 一六

冬寫

冬子や冬し雪冬標
 年れ内乃雪れ日 函の

細代

ざりある細代は標
 雪氷張興と大夜
 舟まや氷ふ標 一六
 冬食氷魚とや大夜 町計

蛎

花より草よりしてらゆ千夜来 留長
花より根よりしてらゆ千夜来 留長

生海風

うきうきもふもふるあふ天 大夜 去後
海はけしきとすもふた 三祀
こけしきとすもふるあふ天 大夜 去後

初鯨

初鯨降れ来や後始か 大夜 去後
ものにつくあふ子持鯨 大夜 去後
鯨のしきとすもふるあふ天 大夜 去後

奥列層破より

うきうきもふもふるあふ天 大夜 去後
鯨のしきとすもふるあふ天 大夜 去後

同出より

うきうきもふもふるあふ天 大夜 去後
鯨のしきとすもふるあふ天 大夜 去後

鯨

鯨けりやうもふるあふ天 大夜 去後
鯨のしきとすもふるあふ天 大夜 去後

鯨

うきうきもふもふるあふ天 大夜 去後
鯨のしきとすもふるあふ天 大夜 去後

夢をよき夢にすむ松^立
 すんきやまの目にあふ魚^白
 想ふ人かきく紙巾^日 浄土
 すえは地衣もくく物の家^日 永生
 想ふき次もきひもきけ^日 久成

古れ納

すけいゝるなれおきき難人^大 政也
 神童あたまれとや納め殿^来 主れ
 夢のあまかきれ納めまわ^日 善心

佛名

仏名はもろ子世界の佛^縁 金雲

追善り

佛名は数もろ人といふ人^天 西福
 まろふろ早福しう仏名^日 高

餅花

餅むもろくくむ呪は枝る^来 主れ
 餅花の虎も白しは山菜^日 山菜
 白石もろくく餅むれまひ^日 高
 竹のまろくく花もろくく^日 一守

陰夜

鬼きくろくちんがうさぎ
梅びとてあふを好む格ハ

大坂
天明
作
終

年内立春

肉沈主入骨此藥第一心

此内伐乃立君之

年九月廿四日
薩列
政定

那兒有去路無生路

宋魯

中乃有公隙也明也
 致也
 於書人遂三百六十字及之

大坂 天明

輝々か拂ひたるや年志 集巻 心盛

くつはる火之海を渡る 大坂 佐々

常孝公王守仁中丞

男成良の世かけと節主良 博元 壬辰

半斗 空斗 乃大底季 寔之

[illegible]

好もといふ春は儚く一夜一六

明皇太后上言
輝矢

文政の文和の年々書
好童楊

目がうやうやしくおぼしき
大坂 友也

老をむる新をむる事^主々不分

皮を成るやをうと人よりほ
 ひも此なりやけさうすか
 川へ神さうそふひけり
 人乃ちとあふもも菜喰
 小風品を今とまへとを我

日 但重
 云松 乃言
 来 面也
 大坂 交也
 悽 也也

次子丹聖之少子

市は風吹やしらぬ下風 内巻井
 か風も拂ひぬき見物 江戸
 傳ふれ文の状を曆か那 錦尾
 物難くもれ白いとる衣も 大坂
 君はやちたふらうん衣 千登
 鎌倉やまゝとて衣なり 相模
 雨の

春より小袖
 明はるやうに
 春より小袖
 明はるやうに
 春より小袖
 明はるやうに